

私たちはメタファー（隠喩、引用で代弁させること）で神を知っている。父なる神と呼ぶ。しかし神は父であるだけではない。もし神を父なるもの、男、家長、権威あるものと想像するなら、私たちは誤っている。聖書は神を、母であり、主であり、羊飼、風、火、母なる雌鳥めんどりと呼んでいる。聖書は神を鶏と呼んでいるが、何を意味しているのか？すべてのメタファーから学ぶのである。水晶を光にかざすと虹が見えるが、それによって輝きを得て各々の新しい角度から、新しい光、新しい洞察力が生まれる。

今日の日課に『人々はせめて着物のすそにでもさわらせてほしい』と記述されている。私たちはその事を以前にも聞いている。血の病にかかった女を覚えているだろうか？彼女はイエスの衣服の裾をさわった。そして彼女の信仰が彼女を癒した。神のメタファーの一つは衣服である。パウロは言う、『洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストをその身に着たのです。』（ガラテヤ3:27）。

このメタファーは、確かに初代教会の助けになった。初代シリアキリスト教徒、聖エフライムは、“真珠の歌”のような美しい聖歌を書いた。失った衣服を探す叙事詩的物語、二世紀の多くのシリア人は聖エフライムを真似た。神をその身に着ることは、初代シリア教会特有の姿であった。おそらくこのメタファーは有益であった。なぜなら衣服は私たちに大きな意味があるからだ。

衣服は地位のシンボルであるし、しばしそうである。衣服を着る選択は、富、特権、生活のよさ、権力との関係を示している。例えば古代東ローマ帝国の支配者は、王族のみが紫の衣服が着用できる法律を定めた。今日でも司祭の間では、主教のみが紫の衣服を着用できる。衣服としての神のメアファーは、地位の形象（姿）に関連してくる。神をその身に着る時は、私たちはすべての特典、地位を身に着けているのである。ただしイエスは語っている。『貧しい人々は、幸いである。柔和な人々は、幸いである。義に飢え渴く人々は、幸いである』（マタイ5:3-10）。

『キリストをその身に着たのです』（ガラテヤ3:27）とは何のことなのか？翌朝に目が覚め、神に着物を着ていただくとする。あなた方は何を着せたのだろうか？衣服にはたくさん意味がある。衣服はしばしば体を保護するためである。私たちは日よけ帽や冬用パーカーを着る。James と Takeshiはペンキ塗りのため特別の服（つなぎ）を持っている。AtsumiとJustinは自転車用ヘルメットをかぶって教会にやってくる。

聖パトリックは私と共にキリストに祈る。キリストは私の前に、後ろに、私の内に、私の下に、上に、私の右に、左におられる。聖パトリックは自身の保護と保持のため、イエスの服を身にこんにち着けていたと想像している。今日のアメリカでの“黒人の命も大切だ”抗議活動では、デモのための服の助言がある。勧める衣服は手袋と眼鏡が含まれ、警察が催涙ガスや発煙弾を使用した時のためである。環境保護者たちがバンクーバーのダウンタウンを閉鎖した時、気候変動のためのスト用の服を着ていたのを記憶している。

「キリストをその身に着ける」とは何のことなのか？

翌朝に目が覚め、神に着物を着ていただくとする。あなた方は何を着せたのだろうか？衣服は制約させるものであり、あるいは自由にさせるものである。私が話していることはお分かりと思う。心地のよくない靴を履く人は皆、見た目がよいからだった。ズボンを購入した人は皆、少し細くなっていたからだった。それは衣服の歴史とは何ら関連がない。コルセットを考えると、体を締め付けた婦人は、気付け用に塩を持っていなければならなかった。バスル（スカートの後ろをふくらませるもの）とそれを止める輪、そして靴は、社会の期待に添うために、女性の体を作り変えるためのものであった。

糊の付いた逆立ったカラーは、一番こわばった体で行動を制限するためのものであった。私はカナダ先住民の子供たちのことを考えてみるのだが、彼らの色彩豊かな衣服は取り上げられ、彼らの独自性を制限した単調なユニフォームの着用を強制された。

あるいは衣服は自由にさせるものなのか？ 女性用のズボンとブルーマは、最初はフェミニスト抗議の服であった。60年代の髪を長く延ばした男性は、ベトナム戦争に介入する政府に対する反抗であった。権力政策への無条件の忠誠に抗議して髪を長く延ばした。それと同時にアメリカの黒人社会では、彼らが暴徒ではないと示すために、抗議としてスーツを着用した。彼らは思慮ある人間であり、道理に適った公正な変革を求めている。衣服は人を自由にできるようにさせている。それは自分の本当のサイズと形をやっと認め、自分にふさわしく、そして体に合う服を着ることである。

衣服は癒しでもある。David Robertson の童話“私たちが孤独であった時”は、先住民の老婆のことを述べている。その老婆は今、制約された子供時代のからの癒しとして美しい色彩豊かな服のみを着ている。先住民寄宿舍学校では孤独であったのだ。

従ってこの年は、多くの人たちがオレンジのシャツを着ている。先住民寄宿舍学校制度で生まれた子供や家族は、もう孤独でないと教えるためにその服を身に付けている。

私は心の底から思うことがある。それは私が持っている特別のブラウスは、とても柔らかく着心地がよく、それを着た時はハグをしたように感じられる。

人々を癒すための衣服を着ることは、どんなようなことかと思うことがある。

私たちに触れるすべての人を癒すために、何を着ることが必要なのか？

力の移行ではなく、大地へ受け継ぐ柔和（やさしくておだやか）であると覚えてほしい。外套のすそを後ろからふれて癒しを得たように（血の病の女を癒す；マルコ5:25-33）、癒しをたどるために（誰がさわったのか）、何を着ることができるのか？

「キリストをその身に着ける」とは何のことなのか？

翌朝に目が覚め、神に着物を着ていただくとする。あなた方は何を着せたのだろうか？ 正確な答えがあるとは思わない。みなさんが思いを巡らしていただきたい。あなたにとって癒しのための特別な才能と自身に必要なこととは。神に着物を着せる時、あなた自身は何を着るのか？ そして最初に思い付いたことで、何が有益でないかを注意してほしい。ある人々が最初に思い付くのは、古くさくて着心地のよくないもの、時代遅れで窮屈な服を着せることである。大嫌いであった子供時代の晴れ着、なぜならそれを着ると、遊ぶことが許されなかった。最初にあなた方が思い付く衣服は、あなた自身や神を制約する形にして閉じ込めるものだろう。その服を保持する必要はない。神への理解力が増すだろう。

「キリストをその身に着ける」とは何のことなのか？ 心からの癒しの祈りである。自分自身と家族の癒しの祈り。ここの、この場所にいる隣人の癒しの祈り。国家の癒し。私たちの心は人種偏見の不正義さで怒りに満ちている。それは寄宿舎学校や反アジア人への増悪犯罪の結果である。今はこの国家のために癒しを祈る。それが衣服のもう一つのメタファーの要素であるので、私たちの衣服は公然なのである。本日の日課に出てくる人々は、病人を運びこみ、広場を（病人で埋め尽くして）壊した。ギリシャ語の“agora”とは公共の場所である。裁判所、政府、商業の場所である。それをイエスは癒しのために使われた。

「少しでも、キリストをその身に着ける」とは何のことなのか？

着物のすそさえ身に着けるとは、どのようなことか？

「キリストをその身に着ける」とは何のことなのか？

今週、聖書勉強会のグループが、この聖書の箇所 of 簡単な説明を私に求めた。

この箇所の正しい理解とは何なのか？ 私、私は疑問だけを持っている。

その疑問を次週のキリストにある人生、そしてこの教会の未来に持って行きたい。

疑問をは次のようなことである。

「教会全体に、キリストをその身に着ける」とは何のことなのか？

「この地域社会が、神をその身に着ける」とは何のことなのか？

このメタファーに注意を払うことによって、私たちは神について何を学ぶのか？

(文責長澤猛)

(説教和訳は御自由にお持ち帰りください)